

大島の屋根 ~ひとつ屋根の下でつながること~

昔は血縁、地縁によるものが大きかったけれど、今はSNSで同じ趣味の友人を見つけるといのように、テーマでつながることが日常になってきている今日、同じ目的意識をもった人が集まると、そこにつながりが生まれ、人とのつながりは心を豊かにし、それは同時に島に住む人の生活を豊かにすると考えます。今回のプロジェクトで「人と人、人と島、人と自然」を論理的かつ感性豊かに提案します。



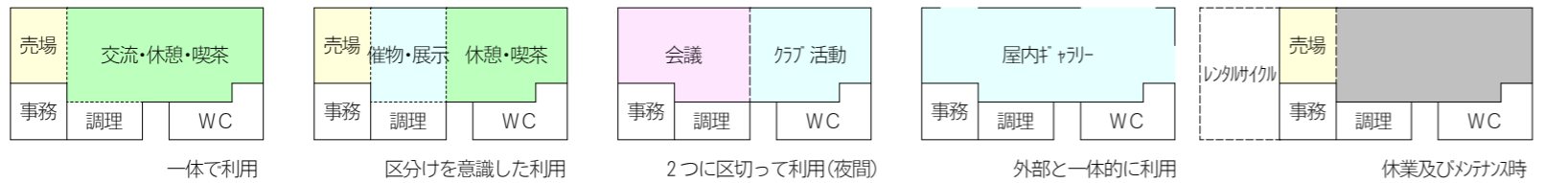
No. 260

●建築の『つながり』

“みんなの施設”とすることで、人々のつながりをつくり、ここを起点に島の明るい未来を築くために考えた建築的的操作は「島に対して開くこと」というシンプルなもの、建築が島に対して開くことで賑わいが生まれ、やがてその建築に人々が集う。毎日食べに来る人、自分の畑で採れた野菜、漁で獲った魚を持って来てくれる人、老人会で頻繁に集う人々。今後の大島の島民活動拠点として島の核となる場所を目指します。

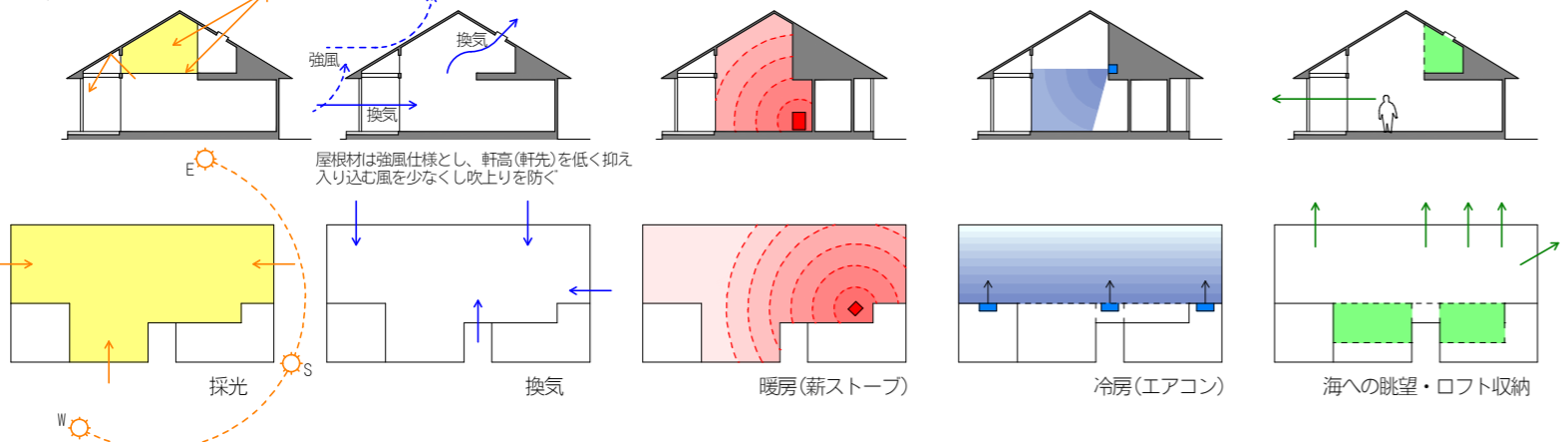
○平面ダイアグラム

5つの展開パリエーション 諸室を並べ引戸で間仕切りをすることで、目的によって部屋の大きさや使い方を変えることができます。



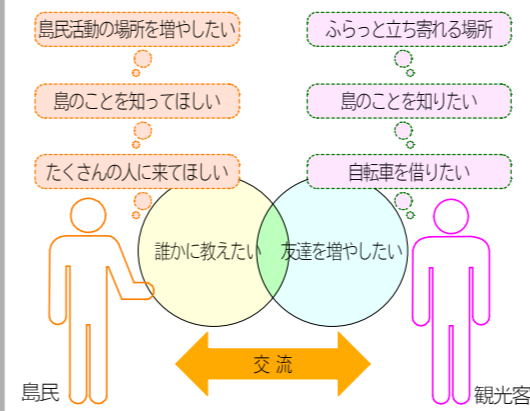
●環境の『つながり』

○環境ダイアグラム



●人との『つながり』

・大島交流拠点施設に期待すること



“おすわけて仲良し”
シンボルツリーとして
たくさんの実のなる
『みかんの木』
おすわけすれば話の
きっかけがお近づきに。

“自然と人が集まる場所”
解放感があり気持ちのいい
デッキは利用者の絶好の
たまり場になりそう。
島民の語らいの場にも。

デッキで昔ながらの漁村風景を
眺めながら島特有のゆったりと
した時間の流れを感じることが
できるサロンの役割も果たし
てくれます。

●レンタサイクル保管場所を見る

●特産品売場を見る

●喫茶スペースを見る

●喫茶スペースより海側を見る

深い軒を設け、一回折る部分を閉鎖することで、室内外の景色が印象的に見える室内に、外の風景を眺めながら、窓ではなく軒で切り取ることで急降りで取り除くよりも緩やかに生まれ、外とのつながりを感じて豊かに思えます。

床面積				建築面積
屋内	半屋外(軒下)	リノリウム部	合計	
78.79 m ²	32.41 m ²	16.00 m ²	127.20 m ²	127.20 m ²

●周囲の家々に適度に馴染みつつも特徴的な外観 <断面詳細図 S=1:50>

勾配が緩いと島の山の稜線に呼应しないと考え、6寸勾配とすることで島の風景に合い、雨を素早く流すという性能も満たされます。切妻屋根とすることで室内空間も広がり、豊かな感じになる切妻屋根の魅力は誰もが思い描く「家」のイメージで最も原初的で、かつ性能が高い建物となります。

